

03・『はちやの湯』脱衣所で、りつさんとおしゃべり

とある年の冬。

トラック02から数時間後。

十二月十二日。二十三時ごろ。

場所は、『はちみつ荘』の隣にある銭湯『はちやの湯』の、女湯脱衣所。主人公は今バイトを終え、今、こちらへお風呂に入りに来たところだ。

SE1 脱衣所の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【小さめの音量で流す】

【0—5秒ほど流してSE2】

【その後、音量が小さくなる】

【トラック終了まで流し続ける】

S E 2 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【0～5秒ほど流して『律』のセリフ】

【その後『律』のセリフと重ねて流す】

【▲1 でストップする】

△主人公

「あ～！ りっさん！」

すると、律がいた。

主人公、近寄りながら声をかける。

▲ボイス加工あり

【5メートルほど離れた位置から聞こえる】

【だんだん近づいてくる（主人公から近づいている）】

●正面 30センチ

△律

「このトラックでは、律はすべて主人公に話しかけている。

明るく、上機嫌で。

律はもうお風呂から上がったところ。

なので、とても気分がいい」

お♪お♪ お疲れい♥

今帰ってきたところ？」

△主人公

「そーお！」

△1 ここでS E 2がストップする。

主人公、返事をしながら、律の隣まで歩いていく。

律はすでに入浴を終えており、服を着ているところのようだ。

二人の距離が近づく。

▲ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

（律）

「にやにやと楽しげに。

しかし『バイト熱心な主人公の事だから、大丈夫だろう』と思つてゐる。
なので、あまり心配はしていない。

軽くからかうような感じで】

バイト。ちゃんと間に合つたか？』

（主人公）

「いやもう、めっちゃギリギリだつた。すごい走つた』

主人公、いかに危険な出勤だつたかを伝えるべく、ウツと顔をしかめ、低い声で答える。
さらに走るポーズまでとると、律は声を上げて笑つた。

▲ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

（律）

「明るく楽しげに。

主人公の返答が面白いので。

また、それでも無事に間にあつた事がわかり、安心したので

あつはは♥

何（なん）とかなつて良かつたね♪

（主人公）

「ありがと！

りつさんは何時に帰ってきたの？

今度は主人公が尋ねる番だ。

律は理系で、主人公には十パーセントほども理解できない難しい研究にいそしんでいる。

今日もおそらく、主人公とさほど変わらない時刻に戻ってきたのだろう。

律、主人公の質問に、服を着ながら答える。

S E 3 律が服を着る音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【0—1秒ほど流して、次の『律』のセリフと重ねて流す】

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

（律）

「明るく穩やかに。

自分の帰宅から、現在に至るまでの経緯を述べる。

また、今日のお風呂の感想も伝える。

律は律で忙しく、疲労する時間を過ごした。

だが、表には出さない】

んー、うちい？

九時くらいかなあ。

みつみちゃん軽くご飯作って待つててくれたから、食べてからお風呂来たのさ～

今日もいいお湯だつたよお。

実質貸し切りをお楽しみ下さ～い♪

△主人公

「おっ♪ やつた♪ ❤」

誰かと会えるのもいいけど、一人もいいよねえ」

△ボイス加工あり

「2メートルほど離れた位置から聞こえる」

●正面 30センチ

△律

「上機嫌で同意する。」

自分も今日は、完全に一人のお風呂だったので。

しかし『その途中で、主人公を始めとする誰かが入浴してきたら、それはそれで楽しいだろう』とも思っていたので

わかる♪

誰かに会えるのもよし、一人でゆっくり入るのもよし、だよねえ ❤ 一

△主人公

「うむうむ。同感ですわ」

SE4 主人が服を脱ぐ音

【最初から最後まで流す】

【次以降の『律』のセリフと重ねて流す】

【SE4が終わり次第SE5を流す】

SE5 主人が服を脱ぐ音2

【最初から最後まで流す】

【次以降の『律』のセリフと重ねて流す】

主人公、会話を続けながら脱衣を始める。

脱衣所には、現在律と主人公の二人しかいない。

寮内に居るのと変わらない、まつたりとした空気が流れている。

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

△律

「しみじみと。

『はちみつ荘』での暮らしについて、良い点を述べていく。

律は主人公よりも一年早く入寮したため、すでに、二年近く『はちみつ荘』で暮らしている。

しかし、それでも時々実感するほど、ここでの生活は素晴らしいので】

……ここ、ほんと良（い）いよねえ。

ご飯美味しいし、寮則緩いし♪

『賭け』とは、寮生の数が少なく、寮の構造上人間関係が密になりそうな分、相性が悪い相手と暮す事になつたら困る。しかし、自分で寮生を選ぶ事はできない。なので、入寮は一種の賭けだつた』という意味】

寮生少ないのは賭けだなうつて思つてたけど、みんな仲いいし。

【寮生の『はちやの湯』利用条件について述べる。

『うちら』とは『寮生たち』という意味。

寮生は、二十二時に『はちやの湯』が閉店した後も、二十四時までなら自由に利用する事ができる。

そうするとほぼ貸し切り状態になるので、律はこの特権を、とても気に入っている】

おまけにこのお風呂♪

錢湯終わった後（あと）うちらの時間にしてくれてるの、ほんとありがたいですわ】

△主人公

「同感う。うちの大学らへんの下宿とか寮で、はちみつ荘が一番いい自信あるね」

▲ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

△律

「明るく上機嫌で同意する。

『りつさん』とは自分自身の事。

『ここのこと』とは、『はちみつ荘の事』であり、また銭湯の利用を含めた、『はちみつ荘での暮らし』の事

りつさんも同感う！

友達とかにここのこと話すと、めっちゃ羨ましがられるもん♪

△主人公

「うん！ はちみつ荘最強！」

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

△律

【きやっきやと楽しげに。

主人公の言葉を復唱する】

『はちみつ荘』さいきよ～！

【少し間をあけてから。

にやにやと楽しげに尋ねる】

でもお……。キミ的には、それだけじやないんじやない？

△主人公

「ん？」

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

△律

「明るくさらっと。

『みつ姉』とはみつみの事。

律は、その時の気分で一人称や他者のあだ名を変えて呼ぶタイプ】
みつ姉（ねえ）がやつてるから、ここ選んだんでしょう？」

（主人公）

「それはあるね！ 幼馴染がやつてるって安心だし」

主人公、ストレートに尋ねられて少々驚きつつも、素直に頷く。
律は主人公とみつみの関係を知らない。

勘のよさそうな律の事だからもしかすると……と思う事はあるが、主人公としては、確
証に至つてはいない。

本来なら、隠すような事ではない。友人に恋人の話をしたつて、何の問題もないと思う。
だが、その友人と恋人、そして自分自身が一緒に暮らしているとなると、話は一気にや
やこしくなる。

だから主人公は、律にもこの関係を話せずにいるのだつた。

……と、悩みつつも、主人公とみつみは隙あらば隠れていちやいぢやしているのだが……。

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

●正面 30センチ

△律

「しみじみと羨ましげに。

『自分だつたら、幼馴染の同性とはいえど、一緒に暮らせるかは自信がない』と思つて
いるので。

また『入寮すれば幼馴染ではなく、管理人と寮生の間柄になり、関係性が変わつてしま
うのもなかなか難しい』と思つて いるので

ほんと仲いいんだねえ。

幼馴染とはいえさ、下宿先として一緒に暮らすとなるとまた別じやない？

『知つてる相手の方が気まずい』『逆に一緒に生活しづらい』とかあるじやん

△主人公

「まあそれはそう、確かにそう。

りつさんの言う通り、みつみ姉ちやんだつたから『いいかな？』つて思つたとこあるね』

だから主人公は『嘘はついていないが、本当の事をすべて話している訳ではない』とうスタンスを取る。

律には申し訳ないと思うが、今はここが限界なのだ。

▲ ボイス加工あり

【2メートルほど離れた位置から聞こえる】

● 正面 30センチ

（律）

【納得したような、納得しきれていないような感じで】

なるほどねえ。

【特に他意なく、明るく。

交友関係の広い律は、色々な人物の色々な人間関係を知っている。

その中にはあまり幸福とは言えない関係も多数あるので。

なので、律は『寮仲間が、管理人といい関係で本当に良かつたなあ』という気持ちで言つてている。

正直な所、律は主人公とみつみの関係をなんとなくあやしく思う事もある。

だが、二人から言つてこない限り律は踏み込まないし、仮に二人が交際しているという確信をもつても、ふれるつもりもないので】

何（なん）か素敵だよねえ、キミらの関係♪

（主人公）

「そうおっしゃつていただけて、たいへん光榮でございます」

▲ボイス加工あり

〔2メートルほど離れた位置から聞こえる〕

●正面 30センチ

（律）

「明るく上機嫌で。

主人公が自然な反応を心がけているようでも、何だか嬉しそうのに気づいてしまった
ので。

だが、やはりつっこまない。

主人公もおおむね脱衣を終えているし、ここで話は終わりにして、ドライヤーのある洗
面台に向かう事にする

ははっ♪

そいじや髪乾かしてくるね♪。

（つくりお楽しみ下さうい♪）

△主人公

「うん！」

SE6 律の足音

【最初から最後まで流す】

【小さめの音量で流す】

【0～3秒ほど流して『律』のセリフ】

【その後『律』のセリフと重ねて流す】

▲ボイス加工あり

【3メートルほど離れた位置から聞こえる】

【だんだん遠ざかる（律が離れていく）】

●正面 30センチ

△律

△明るく上機嫌で

△のぼせんなよ♪

（主人公）

「おーう！」

ここでフェードアウトして終了。